

中央アルプス 風越山～三ノ沢岳山行報告

【山城】 中央アルプス

【ルート】 三ノ沢岳独標尾根



【登山方法】 テント縦走

【メンバー】 C L 柘植、吉川

【行動日】 前夜発 辰野PAで仮眠、6月11日(土)～12日(日)

【行程】

6/11(土) 伊那IC⇒滑川砂防公園駐車場 6:15－渡渉点 6:30－風越山 8:15－天狗山 10:50－
独標 12:30/13:00－中三ノ沢手前の鞍部 2340m 付近幕営 15:00

6/12(日) 幕場 4:35－中山ノ沢 5:30－三ノ沢岳 9:15/30－宝剣岳 11:45－千畳敷ロープウェイ 13:00
－(バス)駒ヶ根⇒(電車)上松⇒(タクシー)滑川砂防公園駐車場⇒伊那IC⇒中央道經由千葉

【内容】

6/11(晴) 赤い橋を渡った先の駐車場に車4台先着がいたが、宝剣岳まで登山者に会う事はなかった。
駐車場から少し林道を下り、難なく渡渉地点を探す。風越山の標識を見つけ尾根に取り付く。



滑川を渡渉（遠方の山は独標尾根のどこか）



古い道標と赤布を見つける

テープも踏み跡もある急な斜面を登っていると、聞きなれぬ鳴き声の先に猿の群れ、5、6匹が、木の上でガサゴソ出迎えてくれた。クマではなくホッとした。木曽古道からの登山道と交わると直ぐに風越山の標柱のある山頂に到着する。平坦な尾根上で、標柱がなければ素通りしてしまうような・・・で、この山名なのかな？と思った。緩やかな尾根は、やがて、林床がシダに覆われた景色の中を進む。



風越山の平坦な山頂（ここまでは道あり）



目に染み入る緑の中を進む

ルート取りはむづかしくなるが、テープを辿るさわやかな道も束の間、細い尾根の登りになると笹がうるさくなり、南側の崩壊地の縁を登る。草付の急登から山頂直下は岩を縫って登り、ほぼ四足状態の急登の割に天狗山の山頂は平らで、展望も標柱もなかった。



天狗山の山裾から独標と蕎麦粒山方面



天狗山を背後にハイマツのやぶを進む



独標の三角点



間近に鋸歯状にそびえる蕎麦粒山

広い二重山稜のようなシラビソ林を抜けると岩尾根に飛び出る。変化する景色にテンションが上がり、目の前の蕎麦粒山をみて、独標に立つ。これから進むルートへのピークが、三つ折り重なり、その先に、中三ノ沢、一段と大きい三ノ沢岳を望む。



独標から望む三ノ沢岳

シャクナゲ藪の急下降のルート取りに苦労しながら下り、二ノ沢のコルからシラビソの林を登り2290mのピークを通過し、倒木とシラビソの幼木の2368mのピークを越して藪のないコケのシラビソ林平坦地となり、ここを今日の幕営地とする。今回の山行の目的でもある二日分の水を担ぐ事とハイマツの藪漕ぎの訓練の内の水を担ぐ事から解放された。湿った小枝で焚火をし、うっとうしい虫を追いやって、まったり至福の時間を過ごし、日没前に就寝した。

6/12（薄曇り） 3:20 起床、要領よく 4:35 に出発する。快適なシラビソ林の先は、白い立ち枯れの連立する明るい平坦地となる。倒木やシラビソの幼木の藪を進み、再びシラビソ林の薄い踏み跡を登り中三ノ沢岳に到着。ここも、山頂標識もなく、通過地点でしかないところだった。



幻想的な原生林の森



中三ノ沢岳の山頂付近から独標方面



行く手をさえぎる無茶苦茶なヤブ



これらをかき分けて進む

次の 2480m岩峰ピークは踏まず北側の急斜面の岩を避けながら慎重に巻き、三ノ沢岳の尾根に辿り着く。シャクナゲ交じりの藪に悩ませられながら大岩の基部に下り、今回の核心部に立ち入る。



稜線の激ヤブを避けて山腹を行く



稜線の猛烈なハイマツに挑む

大岩の基部は、西側を巻き、尾根上は、シャクナゲやハイマツの大藪と格闘するが、進めず時々尾根の北側の急斜面をトラバースするも、また、尾根に戻り成長したハイマツと格闘！この先、暫く大岩が時々現れ、越えたり、西側を巻いたり、ハイマツの枝上を歩いたりくぐったり、覚悟して突入したものものヨレヨレになる。標高 2650m のなだらかな尾根辺りから、シャクナゲやハイマツの背丈も低くなる。



全身を駆使して登る



まだヤブから抜けられないが三ノ沢岳が近づく

前方は、大岩が点在しハイマツの海が広がる斜面になる。このハイマツ帯もまだまだ大変な苦労が続く、いい気になるとハイマツから落とされる。ズボンも手袋も松脂で真っ黒だ！三ノ沢岳直下は、南側の雪が消えて間もない斜面を進み山頂に立った。藪漕ぎ訓練終了した。バンザーイである。感無量！乗鞍岳、御嶽、空木岳や熊沢岳から宝剣岳に続く稜線の展望、昨日から歩いた稜線を眺め、登山道のありがたさを痛感し、宝剣岳の岩場を楽しみながら、宝剣山荘に到着。予定は、木曽駒ヶ岳経由で、上松 A コースを下る予定だったが、今回の目的は達成できたという事で、あっさりロープウエイ～バス～電車～タクシーを使って車回収に変更し、軟弱パーティーに変身です。電車の乗り換え、待ち時間など等、五時間半かかった。山を歩いて下るのと同じくらいの時間を要した。

次々に変化し、いつ行き詰るか？のドキドキ感を存分に味わいました。



独標尾根の全景と木曽御岳山（右上）



空木岳と南駒ヶ岳



三ノ沢岳頂上部と木曽駒～宝剣岳の展望



三ノ沢岳山頂でガッツポーズ



主稜線へ向かう途中で三ノ沢岳を振り返る



三ノ沢岳分岐から宝剣岳

